

英語初級学習者向け TOEIC 教材に関する提案

相川由美

1 はじめに

筆者は8年ほど前より様々な学部、学科で TOEIC 学習科目で授業を担当してきた。そして、ここ数年を振り返ってみると TOEIC 学習科目が、英語、英文学以外の学部、学科の外国語科目として、必修科目および選択科目として位置付けられていることが多くなっている傾向であることに気付いた。大学向けの英語教材を出版している出版社が、TOEIC と銘打った教材を毎年数多く出版していることからそれは見て取れる。それに伴って、英語に関しては初級の学習者が多く在籍する場合でも、TOEIC を主とした授業を行わなければならない場合が多くなっていると考えられる。

こういった状況の元、英語に苦手意識を持っていて基礎力にも不安がある、またはとにかく英語は単位を取るだけで十分であるという学習者にとって、この種の授業はそういったマイナスの要素にさらに拍車をかけることになることがある。そこで筆者は本稿で、英語初級学習者を対象とした場合、学習者の動機付けを促しつつ、基礎力を身に付けるものとして、どのような教材を使用するのが得策であるかを提案する。

2 標準的な TOEIC 対策教材に対する学習者の意識と問題点

ここで2年前に筆者が担当した愛知県内A大学での授業アンケートの結果から、授業に対する受講生のコメントの主なものを挙げる。なお、筆者が担当していたのは社会科学系学部1年生26名である。この科目を受講している学習者のレベルとしては、高校時代普通科高校で大学受験を目指し英語を勉強してきたが、どちらかという苦手意識を持っている学生である。TOEICを受験しても400点には及ばない、中には200点台の学習者も見られる程度であろう。

- ・ TOEICと言われても、いまいちやる気が起きない。
- ・ こんな勉強をして、役に立つのか分からない。
- ・ 難しく、何をやっているのか分からなかった。
- ・ スピードが速くて付いて行けなかった。
- ・ 説明を聞いてもすぐに忘れてしまう。
- ・ 単語が難しい。
- ・ 勉強しているのに、難しくて分からなくなってしまった。
- ・ 教科書が難しく、予習している間にやる気がなくなってきた。だから、途中で予習するのを止めた。

(学生による授業アンケートの自由記述のコメント)

筆者が授業で使用した教材は、TOEICで400点から500点のレベルのもので、現在出版されているTOEIC学習の教材としては一般的なものであったが、英語の学力が初級である場合や、苦手意識を持った学習者にとっては取り掛かりにくいものようであった。もっとも、授業の進め方、解説の方法等によって学習者に混乱を与えていることも見逃せない原因ではあるだろうが、本稿はどのような教材を用いるのが学習者にとって効果があるかを論じる場であるため、今回は割愛する。

前述のように、受講者がアンケート中で『教科書が難しく、予習し

ている間にやる気がなくなった』と述べていたものがあるが、まさに、教材が学習者のレベルに合っていないことを物語っている。また、『単語が難しい』も、教材の中で使用されている語彙レベルが学習者の学力に合っていないと言えるのではないか。

そこで次に、日本国内で大学英語教科書を出版している出版社を3社選び、TOEIC 対策教材がどれくらい存在し、その中で英語初級学習者向けのもの（出版社が設定したレベルを使用して区別した）がどれくらいあるか調査した。なお、初級レベルを TOEIC では300点から400点のレベルと考える。

調査の結果は、A社33点中1点、B社17点中2点、C社35点中3点（2009年1月現在）である。この結果から、初級学習者向けの教材は極めて数が少ないと言える。TOEIC Test の性質上、ある程度のレベルでなければ教材を作成することが難しいという面があるのは確かだ。だが、今後の大学英語教育の実情を考えると、英語初級学習者の占める割合は増えていくと思われる。また、TOEIC 学習をすることに興味を持ってない学生も多く存在するのはアンケートの結果明らかだろう。そういった学習者に対応していくためには、学習者のやる気を削ぐことなく、無理なく TOEIC Test に導入でき、かつ、英語の基礎を身に付けられ、自律して学習することが可能な教材が必要となろう。

3 初級学習者向け TOEIC 学習教材に必要な条件

前節で現在の TOEIC 対策用教材の問題点に触れたが、ここからは問題点を踏まえ、どのような教材を使用することが学習者の英語力向上に寄与できるかを考察する。

3.1 動機付けの観点から

林 (2009 : 208) によると、非自律的な学習者ほど学習活動の「楽しさ」とその「実行」との関係が強い。TOEIC という科目の特性上、学習者はほとんど受身の状態で授業を受講することとなることが多い。前述のアンケートで『TOEIC と言われてもいまいちやる気が起きない』という声が上がったが、これは非自律的な学習者であるため、TOEIC 学習に対して「楽しさ」という面を感じるができないためであろう。将来、TOEIC を受験するという目標があれば別だが、そうでない場合、学習に対する意欲は低くなり得るだろう。そして、授業ではひたすら問題演習、解説の繰り返しなのである。こういった中で次第に学習への意欲が低下していくため、学習に身が入らず予習・復習から手を抜くようになり、最後には何をやっているのか分からなくなってしまうという、悪循環に陥ってしまう。

こういった状況に陥らないために、まずは使用する教材を見直すことが真っ先にできることではないだろうか。相川 (2002 a, b) で、英語学習の動機付けにコンピュータの使用が寄与することに関しては実証されている。英文法という学習者にとっては興味が薄い授業内容であっても、コンピュータを活用した授業方法を取ったことで、学習意欲が飛躍的に向上している。この結果から、TOEIC 学習に関しても同様のことが言えると推測できる。よって、TOEIC 学習に対する動機付けの一環として、コンピュータを使用することを提案する。

3.2 自律的学習の観点から

初級学習者は英語に苦手意識を持っていることが多いため、「やらされている」という意識が強い。そのため、自律した学習者となるのが難しい。2.1では、非自律的学習者には「楽しさ」が必要であり、これが動機付けにつながっていくと述べた。では、「楽しさ」とはいったいど

ういうことであろうか。「楽しさ」と言っても様々な種類があるが、初級学習者の場合は、自分の力でも問題を解くことができたという喜びをいかに味わうかということで、それを得られると考えられる。そして、この喜びの積み重ねが非自律的学習者を、自律的学習者に導いていくのではないか。

本年度、筆者の担当科目の最終授業終了後、5名ほどの受講者に対し授業の感想や、英語学習について直接インタビューを行った。その中から特記すべき内容を以下に記す。

- (1) 自分でもちゃんと勉強をすれば、英語ができるようになることが分かって嬉しかった。それに、自分から勉強しようという気持ちにもなった。
- (2) CD-ROMをやってみたら、英語が楽しくなった。自分もやればできる。
- (3) 授業中に分からなかったところを CD-ROM で勉強し直したら意外に分かった。

その中で(1)を述べた受講者は、英語の基礎力がかなり不足しており、基本的な文法問題を解くにも単語をほとんど全て調べねばならない状況であった。そして、授業期間中5回行われた小テストの結果は、1回目は0点であった。しかしその後、自宅や大学での空き時間を利用して勉強をしたそうである。そのお陰で、最後には7割正解できるところまで進歩していた。テスト勉強をする際に、該当受講者が使用した教材はCD-ROM教材であった。

たった5名の受講者であるが(1)–(3)のような前向きな発言を誰もがしていた。彼らは自力で英語の問題を解き、解説を理解し、ある程度の結果を出せたことに非常に満足していたのである。このことから、筆者は英語学習、特に TOEIC 学習に対し、自律的に学習できない学習者に関しては、CD-ROM のような自学自主が可能な教材を使用すると良い効

果が期待できると考える。

また、相川 (2002 a, b) においても、コンピュータを介した授業の影で学習のきっかけを掴み、自ら課題を見つけ学習を進めていくことで自律的学習者となり得たのである。

このようなことから、特に英語学習に特段の必要性を感じていない初級学習者を自律的学習者へと導く方法の一つとして、コンピュータとりわけ CD-ROM 教材を使用することを提案したい。

4 CD-ROM 教材に関して

第3節において、学習者の動機付けと自律的学習を実現するのに、コンピュータとりわけ CD-ROM 教材がその一翼を担う可能性があると思えたが、筆者はコンピュータ利用が英語学習に良い結果をもたらすと考えている他の教員とともに、初級学習者向けの TOEIC 学習用教材を作成した (小野他 2009)。それを作成するに当たり、従来の紙の教材とともに学習者の自習用として CD-ROM を付属し、主に授業後に学習者が各自で復習に活用できるようにした。本節では、本教材のレベル設定とその教材の利点に関して論じ、提案を行う。

4.1 教材のレベル

教材のレベルとしては、初級学習者を対象としたものであるため、TOEIC のスコアとしては200点台から400点を視野にできるようなものである。これは2でも述べたが、初級学習者に向けた TOEIC 学習教材があまりにも少なく、これまで TOEIC 学習に取り掛かっても挫折してしまった学習者や、どのように学習を進めたら良いか分からない学習者などが入門編として取り組むことが可能なレベルと言える。

また、TOEIC は受験しなくとも、英語の基礎力を総合的に身に付けたい学習者にとっても有効な教材となるために、学習者に難しいと感じさせず、ある程度の達成感を与える難易度でなければならない。そのため、語彙の選択や文法項目の選択、また問題文の長さにも配慮を行っている。

4.2 教材としての利点

次に本教材の CD-ROM の特徴について言及する。それは、教材の各 Unit に 3 日分の自習・復習問題が入れていることである。具体的に述べると、1 日目は、紙の教材の内容と同じ問題を載せ、さらに文法用語を極力使用しない解説を含め、授業の復習に活用できるようにしている。次に 2 日目は、紙の教材や音声で扱った英語表現を活用した練習問題で構成されている。ここで、各 Unit のテーマに沿った英語表現や文法に対して、もう一度形を変えて触れることで知識を確実なものとするようにした。そして 3 日目は、紙の教材で学習した文法事項をさらに定着させられるよう、文法問題を中心に、学習できるよう構成されている。また、2 日目、3 日目ともに語彙や音声の新しい問題も含まれており、音声面の学習も確実にできるようになっている。そして、解説も 1 日目と同様、初級学習者ということを考慮し、なるべく文法用語を使用しない平易な解説を付けている。

前述の学習者達は、本教材を使用して半年間授業を受講した。その結果からも推測できるが、教材のレベルや教材の構成のため、学習内容に変化が付き、そして一度で行う学習の量もそれほど多くないため、初級学習者には手が届きやすい。また、学習者は、パソコンのモニターに映し出される問題を見ながら、マウス操作のみで問題を解くことができ、正解できるまで何度も問題を解くこともできる。そして、自分が学習しやすいスピードで自分のペースを維持しながら学習できるし、何度も繰

り返し解説を読み返すこともできる。また、パソコンさえあれば、いつでもどこでも学習でき、教員が教材として採用を決定すればそのまま簡単に使用できるものでもある。

最近、多くの大学がネットワーク上で使用する英語学習ソフト等を採用している。しかし、大学が契約して使用できるもののため、教員が独自で使用するのは困難である。また、インターネット上にも様々な英語学習サイトが存在する。英語教科書出版社が開設しており、教材購入者が登録することで使用できるようなものも存在しているが、インターネットに接続できる環境でなければ使用することができない。学生の中には、下宿先ではインターネットを使用できないため苦労するものもある。

そして、この教材は CALL 教室やコンピュータ教室だけでなく、一般教室でも使用可能となっている。一般教室では従来どおり、紙の教材で授業を行い、CD-ROM を完全に自習用の教材として扱うのである。学習者が課題を解いているかどうかに関しては、小テストを行うか、学習管理機能が付いているためこれを活用すれば良い。

上記のことから、学習者が個人で簡単に、そして安価な価格で使用できるコンピュータ向け教材として CD-ROM 教材の利点はかなり大きいと見られる。

5 結 語

本稿では、TOEIC 学習の授業において CD-ROM 教材を使用することで、学習者の動機付けを高め、自律的学習ができるよう促し、そこから英語の基礎力を養うことが可能であると提案した。コンピュータが身近にあることが当たり前になっており、学習者は大学入学時に既に使える状態にもなっている。このような恵まれた環境があるのだから、それを

活用することは、学習者にとっても有益であろう。また、CD-ROM教材が学習時間を増加させるのにも役立つことは言うまでもない。このことは、学習者だけでなく、教員の授業進行にも少なからず良い影響を与えるだと推察する。

今後はCD-ROMの使用と学習効果の相関関係、CD-ROMの使用が学習者の動機付けにどれほど関わっているかを、更に大規模に調査する必要がある。また、教室で使用できる環境と、授業外での自学自習用の教材としてCD-ROMを使用する場合の学習効果の相違等を細かく検証していく予定である。

参考文献

- 相川由美 (2002 a) 「英文法指導へのコンピュータ活用を考える」『大学教育と情報 Vol. 10. No. 3』社団法人私立大学情報教育協会
- 相川由美 (2002 b) 「コンピュータを利用した英文法指導法」『LET 中部支部研究紀要第13号』外国語教育メディア学会中部支部
- 小野博 鈴木薫 青谷法子 相川由美 Myers, Janet (2009) *The Next Stage to the TOEIC Test Basic*. (CD-ROMで学習するTOEICテスト：基礎編) 金星堂
- 北尾謙治 北尾S. キャスリーン (1997) 『英語教育のためのパソコンとインターネット』洋販出版
- 林日出男 (2009) 「英語学習の「楽しさ」「重要性」「実行」についての学習者間比較」『Language Education & Technology 第46号』外国語教育メディア学会

